

第2回松本市新庁舎建設市民懇話会会議録

1 開催日時

平成29年12月17日（日） 午前10時15分～12時

2 開催場所

松本市役所 本庁舎3階 大会議室

3 出席委員

河西 史郎委員、倉澤 聡委員、坂井田 金一委員、佐藤 人実委員、
下笹 玲奈委員、高倉 万記子委員、田下 光委員、田邊 愛子委員、
土屋 澄彦委員、寺内 美紀子委員、西村 昭太委員、萩原 梢委員、
福嶋 良晶委員、前田 紳一委員、松尾 朗子委員、松山 紘子委員、
宮澤 信委員、武者 忠彦委員、村山 忠勇委員、渡邊 幸夫委員

4 欠席委員

なし

5 事務局出席者

山内政策部長、横内政策課長、宮尾課長補佐、加島主査、伏見主任

6 結果概要

(1) 開会

(2) 議事

ア 第1回市民懇話会の会議内容の確認

イ 意見交換

(会 長) まず、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 新庁舎建設基本構想“理念・基本的な考え方”に関する他市の事例について説明

(会 長) 市民懇話会の現在の目標として、基本構想をこのようなものに集約するというイメージを持ちながら、今日は3つのテーマについて議論していきたい。「市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方」「松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方」「子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方」の3点について、事前に委員から意見を提出していただいたので、これに沿って一つずつ進めていく。

まず、「市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方」については、庁舎が快適で分かりやすいことが重要との基本的な意見が多かった。市民が利用しやすい環境づくりについてお話しいただきたい。

- (委員) 関係部署は同じ階にあるといい。1階を広くすることが大事。
- (委員) 業務分析を行い、ここになくてもよい機能を外に出すことで、より利用しやすくなると思う。
- (委員) 他の自治体では、市町村合併後に庁舎を統合できない場合、各庁舎間をネットをつないで会議を行っている実績もある。機能を分散させるのはいいことだ。
- (会長) 働き方や組織が変わっていくという指摘についてもお話しいただきたい。
- (委員) 行政はこれから変化していく。求められる職能も幅広くなり、期限付きのプロフェッショナルの雇用等も増えていくと思う。新しい働き方については、民間の経営学や組織論も参考に、職員中心に考え整理されるべき。
- (委員) 各地域づくりセンター・出張所での身近なサービスが充実すれば、一般市民は本庁舎に来る必要がなくなり、庁舎は小さくなくて済む。職員による実情分析、改良点を聞かせてほしい。職員による庁内ワークショップでの意見も反映してほしい。
- (事務局) 庁内ワークショップは11月に行った。次回懇話会では、市が考えるコンセプトのキーワードをお示ししたい。
- (会長) 市民と職員の関係がこれから変わっていくという指摘もあったが、これについてお話しいただきたい。
- (委員) 今後、業務量が減らなければ職員数を減らせない。市民ができることは市民がやることで、財政を圧縮できる。アソシエイトの関係がよい。そのためには、庁舎が市民と職員の話しやすい空間であるとよい。また、職員一人ひとりの知識が豊富で、別の部署に取り次がずに話が済めば、庁舎を分散できる。
- (委員) 福祉分野でも、障害と高齢で変わるだけで話が分からないことがあるので、ワンストップで対応できる、ソフト面の連携強化が重要。また、直営の地域包括支援センターと高齢福祉課が隣同士にあるといい。2025年問題を目前に、地域包括ケアシステムの重要性が盛んに言われている。市がリーダーシップを取ることが大事。
- (委員) 現庁舎は狭いと感じる。人と接する職場は、気持ちに余裕を感

じられる広い空間だとよい。

- (委員) 現庁舎は、「職員が仕事をしている場所」という印象が強い。話しやすいカウンターや、仕事場という印象を持たれない工夫で、もっと市民に寄り添ってくれる場所だとよい。
- (委員) ユニバーサルデザインが普通のデザインと違う点は「使う人にとって一番良いデザインは何か」を考えること。庁舎のあり方も、サービスを受ける人にとって一番良いデザインを発想すべき。市民が一番不満なのは、市役所でのたらい回し。一か所で全て解決するという組織づくり、サービスづくりを検討したうえで、庁舎はどうあるべきかというハード面を考えるのが、ユニバーサルデザインの基本である。
- (委員) 民間企業のオフィスはIT化や業務の効率化も進み、書類が非常に少なくなっている。前回、現庁舎を見学し、これだけ多くの書類がある職場を見たのは初めてだった。書類があると、キャビネットを置くスペースが必要となり、探す作業も必要、共有化も難しい。書類が減らない理由、改善する余地はあるのか。
- (事務局) 現在は、紙で保存するのが原則となっており、定められた保存年限が過ぎると処分している。市としても、書類の管理手法は課題と捉えている。
- (委員) 松本の季節の特性を利用した、快適な労働環境づくりが必要。松本は晴天率が高いので、太陽光を上手に使ったり、きれいな外気を使ったりして、素敵な環境にするという観点が必要である。駐車場や公共交通からのアクセスも、弱者の利用しやすさを最優先し、逆に健常者には多少不便でも構わないので、マイノリティ重視が目に見える形にする配慮も必要。
- (委員) 1階受付で行き先を聞くと、間違った場所を案内されることもあり、本当に分かりにくい。ワンストップで分かるとうれしい。
- (会長) 1点目の意見をまとめると、市民・職員にとって快適で分かりやすいことがまず基本である。また、先を見据えた機能の再配置、働き方や組織の見直しを前提に考えるべきという意見もあった。ユニバーサルデザインや、市民と行政の関係性が変わっていくという意見もあった。
- (委員) 庁舎3階の渡り廊下で、新庁舎建設を題材に展示・発信してはどうか。未来志向ということで、タクティカル・アーバニズムではないが、トライアルしてフィードバックする仕掛けが大事だと思う。

- (会 長) 続いて2点目「松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方」について考えたい。
- (委 員) 市役所は、使いやすく効率的で快適な機能を満たすだけでは満足されない。この懇話会で、早い段階から「松本城のそばにある庁舎はどのような建物が良いか」ということを検討項目の一つに挙げて議論をし、欲しい姿の合意ができれば、懇話会として一つの成果になるのではないか。それをきっかけに、あれを生かすならこれは我慢しようとか、姿や形が言外に作っていく推進力は大きい。デザインの話を早くから始めることで、さすが松本らしいな、そういうことを大事にしているんだなというアピールになる。
- (委 員) 松本城の背景となる建物が無機質なビルであったら意味がない。やはり松本城との一体感が必要。名古屋城周辺に建つ庁舎は、名古屋城と調和した外壁や屋根のデザインになっている。庁舎からお城が見えれば、観光施設にもなりうる。お城の一部の建物というコンセプトにしたら面白い。
- (委 員) 木材や瓦を使用すれば松本城と一体だという話にはならない。地下駐車場という意見もあったが、松本は水脈が多いので経費が掛かる可能性がある。条件を増やすと、提案が狭まってしまう。設計者の視点を踏まえることも大事。
- (委 員) 松本城を意識しないと松本の特徴は出せない。歴史文化を尊重し、お城の景観に合った庁舎がほしい。木造の庁舎を建てれば、全国に誇れるものになる。
- (委 員) 市役所の機能と、観光スポットとしての機能は、分けて考えなければならぬのではないか。混在することで無駄が発生したり、必要なものが失われたりしないか。観光も含めて考えてよいか。
- (会 長) 懇話会の中では、市役所の機能以外に、この立地であり得る機能についても議論してよい。
- (委 員) ベルギー・ブリュッセルの市庁舎前は広場になっており、観光客も多い。土日祝日に、松本の農産物等を生産者が直売するスペースを作れば、観光客が生産者と直接対話しながら楽しい交流ができる。松本に来て、アルプスの山々と松本城を見て帰るだけではない、深い満足感を伴った観光になるのではないか。観光産業は関連業種が非常に多く、環境を汚染しない優れた産業。松本城の隣という立地を生かして、庁舎を観光資源として考えるべき。また、外気を感じられる建物がよい。沖縄県名護市役所には、外と中と「中間」があり、長いひさしの下に日陰があったり、空気

の流れが感じられる回廊があったりする。大都市のオフィスビルとは違う、空気のいい地方都市にふさわしい庁舎のモデルなので参考にしてほしい。外と中を明確に分けるのではなく、「中間」の空間を作ることによって、人々の交流が生まれ、深い時間を過ごせる。

(委員) 市役所から松本城と北アルプスを眺められれば、松本をアピールできる場所になる。松本城をゆっくり観光できる人ばかりではないので、例えば仕事で松本に来た方の「松本城を少し見て帰りたい」というニーズに応えられるのではないかと。

(委員) 子どもを連れて市役所を利用した時に、離れたところに車を止めざるを得ず大変だったので、誰でも利用しやすい駐車場が必要。

(委員) 「環境」には広い意味があるが、地域の環境だけでなく、地球環境への配慮を目に見える形で発信すべき。松本の特性に合った自然エネルギーもたくさんある。また、周辺環境との一体化という点では、現庁舎周辺は車道ばかりで松本城と一体化しにくい。車道や駐車場がどうあるべきか等、周辺環境を含めて考える必要がある。

(会長) では2点目の意見をまとめると、まず、松本固有の自然環境を生かすということ、そして、松本城との関係をどう考えるか(外観、眺望等)、さらに、中間的な空間を設けることで新しい機能を付加できるという意見があった。2点目は、短時間では議論しつくせないで、3回目以降も引き続き議論していきたい。

では、3点目「子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方」について考えたい。これはまさしく「未来志向」に関する問いだが、皆さんの意見で一番多かったキーワードは「柔軟性」、社会や経済の変化に合わせて変えられる柔軟な構造であるべきという意見だった。

(委員) 県外の自治体職員等と意見交換した時、ある市の職員が、将来人口推計の詳しいデータを示しながら、10年、20年、50年先の人口構成を前提に何を考えているのか、自信を持って説明していたのが大変印象的だった。現状把握から、市の庁舎のあり方を見出せると良いと思う。また、庁舎へ入った途端、「子育て」「健康」に注力していることを印象付けることも必要だ。さらに、小～大学生の意見収集や情報交換の場を作ってはどうか。

(委員) 松本市より大きな市の庁舎を参考にしがちだが、全国の町村役場もぜひ見てもらいたい。人間的にも機能的にも、松本市役所に比べると足りないものだらけだが、町村民との密接な関係やサー

ビスのワンストップ化、有事に備えた広い駐車場など、小さな拠点ゆえの効率を実現している役場は多い。小さい役場のあり方もこれからヒントになる。市町村合併が進んだ時に、逆に拠点が分散する時代が来るかもしれない。小さいが高性能で役に立つ役場とは何かを、今考える時でもある。

(委員) 将来を見据えるということは、長く持つ建物を考えるのが一番重要。少なくとも百年、二百年使えるような建物を設計すべき。もちろん内装はフレキシビリティが必要だが、躯体の長寿命化は重要だ。木造にこだわるわけではないが、ビルには直交集成材という技術もある。

(会長) サステナブルな建物は何かというのは大きなテーマだと思う。サステナブルという点で、財政の指摘もいくつかあった。

(委員) やはり長く使えて、ランニングコストが安く済み、長い目で見た時にお財布にやさしいということが大事。

(委員) お金を掛ければ良い庁舎はできるが、現実的に今の財政でそれができるのか、建設費が高くなってもいいのかということも頭に入れる必要がある。

(委員) 「子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方」こそコンセプトで、一番大きな理念になると思う。先日読んだ「美術館のあり方」に関する新聞記事を紹介したいが、美術館を市役所に置き換えても同じことが言える。「文化施設は新しい場を作ることが大切」で、「ハコから多様な行為が生まれるインターフェースのような存在へ」「まちと人の接続装置として設計する必要がある」という2つの大きな視点が出ている。まさにこのことを、基本構想でうたうべき。

(委員) 市役所はこの20年、国から仕事が下りてくるのに合わせて部署を作ることが多かった。今後20年も、またどのような仕事が下りてくるか、どのような部署を作る必要があるかは予測できない。庁舎内の配置を自由に変えやすくするのはいいことだと思う。実際、他の自治体では、新たに部署を作るために壁や会議室を作って費用が発生しているところもある。

(委員) 今進んでいる基幹博物館の建設や、民間企業の社屋建設、まちづくりに関する委員会や関係町会の意見等、幅広い情報を把握しながら、同じ方向へ向かっていきたい。

(会長) 3点目の意見をまとめると、フレキシブルであること、サステナブルであることがキーワードになるかと思う。

次に、今後の予定について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 今後の予定について説明

(会 長) 何か意見はあるか。

(委 員) 資料の事前送付時期を早めてもらいたい。その先駆けとして、メールでの電子ファイルの資料送信を希望する。

(事務局) 対応したい。

(会 長) 次回は、2月24日(土)10時15分から開催したい。これで第2回市民懇話会の議事を終了する。

(事務局) 長時間にわたり、さまざまな視点から幅広くご意見をいただき感謝申しあげる。本日いただいた意見を参考に、基本構想の作成に努めていきたい。以上で、第2回市民懇話会を終了する。